

ビジネスチャンス 2

次なる成長を狙うすべての起業家を応援する 起業&新規事業の専門情報誌

巻頭特集 国内経済の縮小化で進む企業の海外進出

今こそ飛び出せ! アジアで戦う日本人たち



第2特集

リスクを取らずに起業できる わが社の こだわり独立制度

巻頭インタビュー 獅子奮迅
東京フード 栗田英人社長
大好成績 ぼてぼて屋を単独に全国展開
ワンオペラー 現職・台湾から海外展開を目指す

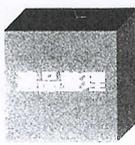


巻頭対談
亀岡大郎の天下取り対談
亀岡大郎
代表取締役




試験に合格すれば遺品整理士として認定されるが、問題解答に加えて業務に

プロフィール●1977年3月23日生まれ。北海道出身。高校卒業後、北海道札幌市にてリサイクル業に従事。遺品整理を請け負った経験から法規制などを学び、遺品整理士認定協会の設立に賛同。同協会の理事に就任。
企業データ●2011年9月設立。遺品整理士の認定・育成事業を行い、法規制に沿った適切な対応を業界に呼びかける。



遺品整理士の認定制度創設 規制のない業界の健全化を図る

遺品整理士認定協会 小根英人理事

「リフォーム会社や建設業などを中心に認知が広まってきていますが、最近では身寄りのない方の引受人となるアパートオーナーなどからも徐々に心が寄せられてきています」(小根理事)

高齡化や核家族化に伴い社会問題となっているのが高齡者の孤独死。こうした背景のもとに近年参入業者が増加しているのが「遺品整理」だが、同業界内に一石を投じる団体が登場した。今年9月に設立された「遺品整理士認定協会」だ。

同協会は運送業やリサイクル業、便利屋やリフォーム業といった遺品整理受託企業の健全化をはかるために設立された。協会では遺品整理士養成講座を開設して認定試験を実施するが、同講座では廃棄物やリサイクル品の取り扱いに関する各法的規則や事例から正しい実務の対応をテキストで学ぶ。

試験に合格すれば遺品整理士として認定されるが、問題解答に加えて業務に

する心構えなどをレポートにして提出することになり、遺品整理に携わるモラルも判定基準に含まれる。

「現状、我々が把握している事業者数は700社程度ですが、市の認定をしつかり受けて業務を行なっているのはわずか100社ほどに過ぎず、残りの600社の中には不適切な対応をする企業も存在します」(小根英人理事)

実際、関連業者による不法投棄や高額請求といった問題が多い。特に高額請求の問題では弁護士への相談から民事裁判に発展しているケースも多く、放置できない状態となっている。

現在、同協会では認定講座の啓蒙活動と併行して、本部の近隣都市である札幌市に条例案の制定を組み合わせる動きも進んでいる。